

## 特別支援学級における 個に応じた学びの場や 環境を整えた授業づくり

自立活動の内容をもとに個の特性の分析を生かして

### テーマ設定の理由

特別支援学級には複数の子供がいて、  
それぞれの特性がある。

これまで自立活動について研修してきている。

個の特性を理解して授業をつくる。

一人一人の子供の自己肯定感や学習意欲を  
高めるだろう。

### 授業づくりの手立て



パターン化し、内容と時間を可視化する。



一人一人の実態を把握し、その子にあった教材の選択・作成をする。



優位性、感覚、こだわりなど、障害の状況や発達段階に配慮する。

### 研究の内容

- 仮説I  
ヘルプシートを活用することで、個の特性理解ができるだろう。



- 方法
  1. ヘルプシートを1人分ずつチェックする。
  2. リサーチシートを作成する。

## 研究の内容

### ・仮説2

目標や指導を具体的に検討して実践をすることで、子供は成功体験を積み重ねて、学習意欲や自己肯定感を高められるだろう。

### ・方法

1. 対象児を決め、目標や具体的な指導・支援の方法を考える。
2. 「97項目のチェックリスト」を活用して、困難さを定期的に確認する。

## 令和4年度 4年生男子4名・3年生男子3名



## 個に応じた学び → 個人に焦点を当てる



### ・実態

	できること・得意なこと	難しいこと・苦手なこと
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支度は一人でできる。</li> <li>・自分の伝えたいことは言える。</li> <li>・相手の気持ちも受け入れられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直に受け入れること△</li> <li>・ボタンや服の裾をしまう動作△</li> <li>・陽気なときは言葉でない声を出す。</li> </ul>
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草取りなどの農作業が好き。</li> <li>・集中して取り組める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名の形と音が定着しない。</li> <li>・話す言葉が不明確。</li> </ul>
身体面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俊敏で、走る事が得意</li> <li>・跳躍力もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟さが低く、体に力が入る。</li> <li>・注意がそれる。</li> </ul>

## 個人の分析を進める

### ・ヘルプシート

→リサーチシート

→プランシート



項目	内容
生活面	<p>生活面</p> <p>自分の支度は一人でできる。自分の伝えたいことは言える。相手の気持ちも受け入れられる。</p> <p>素直に受け入れること△ ボタンや服の裾をしまう動作△ 陽気なときは言葉でない声を出す。</p>
学習面	<p>学習面</p> <p>草取りなどの農作業が好き。集中して取り組める。</p> <p>平仮名の形と音が定着しない。 話す言葉が不明確。</p>
身体面	<p>身体面</p> <p>俊敏で、走る事が得意。跳躍力もある。</p> <p>柔軟さが低く、体に力が入る。 注意がそれる。</p>


2 国語科(1年) 発音が明確に平仮名が書ける。  
 2 国語科(1年) 語彙を増やす。

1 学習の状況	心身の発達	人間関係の形成	読書の定着	身体の発達	コミュニケーション
① 日常生活の中で日本語を聞く機会が増えること ② 日本語の発音や文字の読みが正確になること ③ 日本語の発音や文字の読みが正確になること	① 身体が成長し、心身の発達が進むこと ② 感覚器官の発達により、音や文字の認識が正確になること ③ 言語の発達により、発音や文字の読みが正確になること	① 友達や先生と関わり、コミュニケーション能力が向上すること ② 集団生活の中で役割を果たすことが出来るようになること ③ 自己肯定感を高めることが出来るようになること	① 読書の楽しさや大切さを知ること ② 読書を通して様々な知識や情報を得ること ③ 読書を通して想像力や創造力を養うこと	① 身体が成長し、運動能力が向上すること ② 感覚器官の発達により、音や文字の認識が正確になること ③ 言語の発達により、発音や文字の読みが正確になること	① 友達や先生と関わり、コミュニケーション能力が向上すること ② 集団生活の中で役割を果たすことが出来るようになること ③ 自己肯定感を高めることが出来るようになること

3 指導内容  
 手立て  
 指導要領


「あいうえおのえほん」を音読する。  
 →言葉として捉えられない  
 →活動に対して少し嫌そう  
 「これは何?」「○○はどれ?」  
 →答えられない

### これまでの取り組みと様子 (主に国語での活動)



- 11月 平仮名表を50音順に並べる。
- 12分→6分0
- ばらばら →並べる0
- 順に読む0
- 2学期はほぼ毎日 →3学期は時折



- 「あいうえおのえほん」を音読する。
- 音を確認しながら読む  
→言葉として捉えられない  
→活動に対して少し嫌そう
- 「これは何?」「○○はどれ?」  
→答えられない



- 1月 文字の形を捉えられるよう砂文字カードをなぞる。(ざらざらした感触で形を覚える)
- 書き順により色分け
- 始筆にはラインストーン →書き順の定着△





言われた音のカードを取る。

- 形を選ぶ0
- 同じ学級の児童と一緒に取り組む◎
- 取ったカード →指でなぞり、書き順と形を確認△

- 2月 問題を自分で読む → 答えを選ぶ → 答える。
- さらに...
- 問題に出てきた、イラストが何かを答える。
- 答えを平仮名カードで並べる。
- 並び替えクイズ

教科書に合わせてシートを作成

## 2月 ケース会議

なのはな相談室、放課後デイサービス、保護者

- それぞれの様子や取組など情報を共有
- 書き写す〇 ⇄ 言葉理解△
  - ただの作業
  - 並び替えや文字を選ぶなど工夫のある問題
- 放デイで取り組んでいるプリント
  - 学校や他の放デイも似た問題を



- フォントや向きなどが異なる
  - 初めての言葉のように読む
  - 言葉をかたまりとして捉えたい
  - 言葉カードを読む
  - 学校では「教科の名称」

## 2月

文字の並び替えアプリで取り組む。

- ヒント→読まない
- 問題に注目→答える
- 3文字は簡単
  - 生活の中でなじみのないもの△



## 3月

平仮名一文字のカード取り

→いろはカルタに挑戦する。



→カードの枚数を数える学習へ〇

(合科的学習)



## 令和5年度 2年生男子1名・4年生男子4名



## 4月 片仮名の学習を始める。

- 身近な野菜の名前や好きな虫の名前のイラスト
  - 平仮名で読み書き
  - 片仮名で読み書き
- 絵を見て文字を選ぶこと〇
  - 文字だけを見て答える△



## 国旗カルタに取り組む。

- 読み札そのまま
  - 国の名前だけを読むときも
- 「イ」の付く国が多い
  - 間違えやすい
  - 短い名前は確実に取る〇
- 読み手に立候補
  - 読むことに挑戦〇





- 4月 シール貼り
  - 自分で選ぶ
  - 丸の中に貼る〇
- お金の学習
  - 位の理解
  - 数量や表し方・数え方を確認
- 読書
  - 友達といっしょに絵探しの本を楽しむ。
  - 文字を指で追いながら自分で本を読む。

- 6月 百玉そろばん→点つなぎ
  - 数唱→表記
  - 名称も確認 (合科的学習)
- 片仮名表示
  - 3年時に使用した平仮名カードに、片仮名を貼る。
  - 読みも確認。
  - 50音順に並べる。
- 朝読書

- 6月 濁音・半濁音・拗音の発音練習
  - 表を活用
  - 1文字ずつ縦に順に読む
  - 単語(イラスト付き)を読む
  - 順不同に指された文字を読む
  - イラストを隠して単語を読む
  - 課題が明らかに
- 9月 クイズ(書き取り)
  - 課題に即した絵カードを用意
  - 絵カードを見て答える。
  - 平仮名や片仮名
  - 漢字に発展
  - ホワイトボードを使用。

- 9月 カルタ作り(書く学習)
  - 読み札の頭文字をチェックしながら進める。
  - 文字を選んでから言葉を探す。
  - 初めの言葉の後の文を考える。
  - 完成していく喜び、できあがった達成感
  - ゲームの楽しみなどを実感

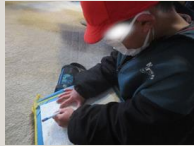


### 社会科見学

「これは、なんて書いてある？」  
と聞いてメモを取る。

展示資料の説明

- 教員に質問
- 一生懸命書こうとする
- 音と文字が一致してきた



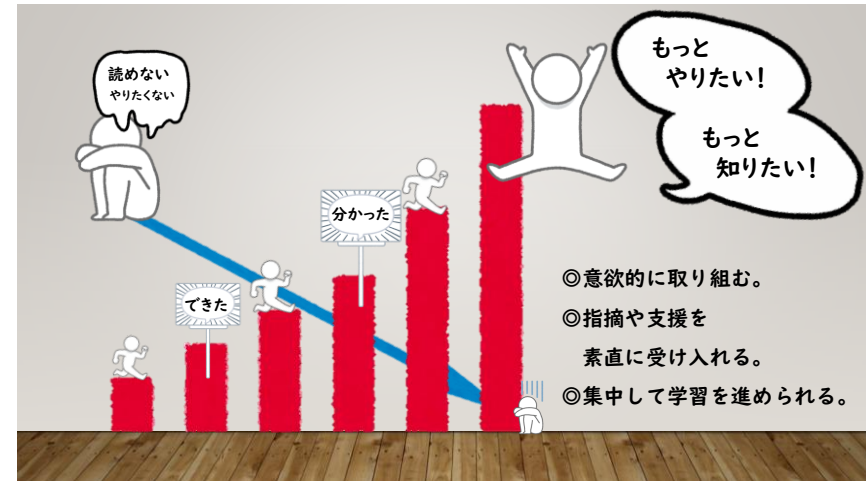
### 交流会のお知らせ

練習

- 読み方に困る
- 友達に聞く
- 読めた

本番

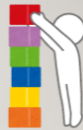
- 練習と同様でよいことを伝えておく
- できた○



### 課題

#### 「読む」の改善について

- ・項目までは達していない。
- 文字と音が一致してきた。
- 言葉のまとまりが分かってきた。



読む	記憶・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて出てきた語や音段あまり使わない語などを読み間違える</li> <li>・音読、黙読が遅い(すらすら読めない)</li> <li>・音読はできてても内容を理解していないことがある</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
	弁別・統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする</li> <li>・文字を抜かしたり、余分な文字を加えて読んでしまう</li> <li>・適切でない(意味の通らない)所で区切って読む(例:「歩いて います」⇒「歩いてい ます」)</li> <li>・似たような形の文字を間違えて読む(例:「石」⇒「右」)</li> <li>・語尾や文末を作って読んでしまう</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>

#### 仮説2について

- ・実践の適切さの判断の難しさ  
活動や方法の善し悪し、継続や変更などを見極めが困難



#### 研究にかかわらず

- ・複数人の特性に配慮した授業づくりが必要  
→引き継ぎや見取り、教職員間の共有を大切に。
- ・個や集団に合わせた学習の進め方、教材づくりにおいて手探り  
→根拠と試行錯誤が大事。





**終わりに・・・  
通常学級での支援**

**だれもが分かる手立て①**

- 穴埋めや教科書問題の難易度を下げたワークシートの作成。

黒板にワークシートの拡大を貼ることで、手元のプリントと同じ所を書いたり、確認したりできる。

筆算が正しくできるように枠を記載

物差しで表を書く作業を省略

色で分けて視覚的な支援を

**だれもが分かる手立て②**

- 今日の予定や次の授業準備、手順などを掲示。

黒板に貼ることで自分で（自分たちで）行動することができる。

言葉＋イラスト

視覚的な支援を

**だれもが分かる手立て③＋個別の手立て**

- 宿題の手本を作成。→毎週全員に配付。

ノートのマス目に合わせたもの。【全員】

文字数を減らし、単語の漢字をなぞる。読み仮名は自分で書く。【個別】  
→取り組む習慣や正しい字形の定着。

文字数を減らして、単語の漢字を横に書いていく。（なぞり＋書く）【個別】  
→やる気の向上と正しい字形の定着。

**個別の手立て**

- 書くことが苦手な児童に対して

部分ごと異なる色のペンで下書きをする。

漢字ドリルは練習する文字数を減らす。薄い色のペンでなぞる下書きをする。

ノートの板書が難しい児童に、書く位置が分かりやすく書く文字数を減らしたシートを渡す。  
→書き終えたらノートに貼る。